平成29年4月27日 公益社団法人国土緑化推進機構

第27回「みどりの文化賞」受賞者の決定について

公益社団法人国土緑化推進機構は、第27回「みどりの文化賞」受賞者を 下記のとおり決定いたしました。

「みどりの文化賞」の表彰は、来る5月13日(土)、イイノホールで開催する第27回森と花の祭典「みどりの感謝祭」の式典において行います。

「みどりの文化賞」受賞者には、

ア みどりの感謝祭名誉総裁の表彰状

イ 公益社団法人国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞 が授与されます。

くまざき みのる

受 賞 者 熊崎 実 氏

問合せ先: 公益社団法人国土緑化推進機構担当: 荒井 電話 0 3 - 3 2 6 2 - 8 4 5 1

第27回 みどりの文化賞



再生産可能な未来のエネルギーの礎を築く ~木質バイオマス利用と農山村の振興への願いを込めて

^{受賞者} 熊崎 実 氏

1. 熊崎 実氏は、農林省林業試験場(現 国立研究開発法人 森林研究・整備機構)、筑波大学、岐阜県立森林文化アカデミーに奉職した。その後、新たに設立された(一社)日本 木質バイオマスエネルギー協会などの会長に就任して今日に至っている。

林業試験場では、林業生産活動と環境保全との両立という課題に答えるべく環境経済学の理念に立脚して『森林の利用と環境保全ー森林政策の基礎理念ー』、また木材市場の国際化で苦境に追い込まれた国内の森林経営の振興策について提言した『林業経営読本』を執筆した。

昭和50年代に入ってからは、熱帯林問題や地球温暖化問題と向き合い、平成に入り、木質バイオマスのエネルギー利用に焦点を絞って精力的に活動している。時代とともに氏の研究のテーマは変わってきたが、終始国際的な視野で問題を捉え、解決策を探るという姿勢は一貫して変わっていない。

2. 日本では、平成に入って木質バイオマスの近代的利用に関心が向けられるようになったが、当時、国内の製材工場などはダイオキシン問題などで工場残廃材の処理に苦慮していた。一方スウェーデンなどでは、こうした残廃材を利用した熱供給や熱電併給が普及して木材産業の経営基盤の強化に役立っている状況にあった。氏は日本もこれに倣うべきだと考え、平成10年に木質バイオマス利用研究会を立ち上げ、シンポジウムなどを開催するとともに『季刊木質エネルギー』を発刊して新しい技術の紹介、普及に努めた。

その後、欧州では、木質チップ、木質ペレット焚きの小型ボイラーの性能が著しく向上 し、木材をガス化して熱電併給を行う小型の装置が普及し始め、農山村におけるエネルギーの地産地消が進んできた。

森林資源に恵まれた日本でも木質エネルギーを増加させるポテンシャルは決して小さくないとの考えの下、中山間地域において、地場資源で「エネルギー自立」を図りながら、雇用を増やすとの目的で各地における取組の支援活動を行っている。なお、欧州のバイオマス利用の状況の調査結果についてのウェッブ週刊誌を通じた発信(掲載コラムの数は60以上)は、今後の木質バイオマス利用促進に当たって貴重な情報源となっている。

(経歴)

昭和10年 岐阜県に生まれる

昭和33年 三重大学農学部卒業

昭和33年 農林省林業試験場(現 国立研究開発法人 森林研究・整備機構)に入り、海外林 業調査科情報室長、経営部経済研究室長、林業経営部長を歴任(平成元年退官)

昭和53年 農学博士(京都大学)取得

平成元年 筑波大学農林学系教授(平成11年退官、名誉教授)

平成10年 木質バイオマス利用研究会会長

平成13年 岐阜県立森林文化アカデミー学長(平成20年退官)

平成15年 一般社団法人ウッドマイルズ研究会会長

平成19年 一般社団法人日本木質ペレット協会会長

平成24年 一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会会長

(受賞歴)

昭和54年 林学賞(日本林学会)

(主な著書)

『森林の利用と環境保全-森林政策の基礎理念-』日本林業技術協会(昭和52年)

『転換期の林業経営』林業科学技術振興所(昭和60年)

『林業経営読本』日本林業調査会(平成元年)

『地球環境と森林』全国林業改良普及協会(平成5年)

『森からみる地球の未来6 森と人の歩み』文研出版(平成8年)

『木質バイオマス発電への期待』全国林業改良普及協会(平成12年)

『木質エネルギービジネスの展望』全国林業改良普及協会(平成23年)

『木質資源とことん活用読本』編著、農文協(平成25年)

『熱電併給からはじめる木質バイオマスエネルギー発電』日刊工業新聞(平成28年)

(主な訳書)

J. ウェストビー『森と人間の歴史』築地書館(平成2年)

A. メイサー『世界の森林資源』築地書館(平成4年)

K. ミラーほか『生命の樹ー熱帯雨林と人類の選択』岩波書店(平成5年)

T.C. ホイットモア『熱帯雨林総論』監訳、築地書館(平成5年)

V. シヴァ『生きる歓び-近代科学批判-』築地書館(平成6年)

P. ブランドン『イギリス人の見た日本林業の将来』築地書館(平成8年)

C. タットマン『日本人はどのように森をつくってきたのか』築地書館(平成10年)

P. トーマス『樹木学』共訳、築地書館(平成 13 年)

みどりの文化賞について

1 趣旨

緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資する観点から、平成2年、国土緑 化推進機構は「みどりの文化賞」を創設し、緑や森に関して顕著な功績のあっ た者(個人または団体)を対象として顕彰している。

2 選考方法

広く学識経験者等から候補者の推薦を受け、それに基づいて有識者で構成する「みどりの文化賞選考委員会」において受賞者を決定する。

3 表彰

「みどりの月間」中に開催される「みどりの感謝祭」の式典において表彰し、みどりの文化賞受賞者には、

- ① みどりの感謝祭名誉総裁の表彰状
- ② 国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞を授与する。

みどりの文化賞選考委員(五十音順)

青	Щ	佳	世	フリーアナウンサー
今	井	通	子	医師、登山家
倉	本		聰	自然·文化創造会議議長、作家
佐々	木	惠	彦	日本学士院会員、公益財団法人 国際緑化推進センター理事長
澁	澤	寿		特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク理事長
滑志田			隆	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所フェロー
				ジャーナリスト(元毎日新聞編集委員)
古	Ш		清	元東宮大夫
箕	輪	光	博	一般財団法人 林業経済研究所 理事長
宮	林	茂	幸	東京農業大学地域環境科学部教授

(敬称略)

「みどりの文化賞」のこれまでの受賞者

- 第 1 回 戦後の森林造成と国土緑化 (受賞者)徳川 宗敬 氏(故人)
- 第 2 回 木の文化の継承、発展に貢献した者 (受賞者) 西岡 常一 氏
- 第 3 回 森林と水との関わりを社会にひろめる (受賞者) 財団法人 水利科学研究所
- 第 4 回 森林と水の守り手,山村を支える(個人) (受賞者)黒澤 丈夫 氏(群馬県上野村村長)
- 第 5 回 森林と水の守り手,山村を支える(団体) (受賞者)宮崎県諸塚村
- 第 6 回 ボランティア活動による森林づくり (受賞者)草刈り十字軍
- 第 7 回 持続的森林経営をめざす森林づくり (受賞者) 高橋 延清 氏
- 第 8 回 大都会のなかでの自然豊かな森林づくり (受賞者)明治神宮の森
- 第 9 回 海を蘇らせた森林づくり (受賞者) えりも岬の緑を守る会
- 第10回 「森林文化」の新たな展開 (受賞者) 筒井 迪夫 氏
- 第11回 民間公益団体による緑化活動支援 (受賞者) ゴルファーの緑化促進協力会(GGG)
- 第12回 上下流の協力による森林づくり (受賞者) (財) 矢作川水源基金
- 第13回 国際緑化活動の推進 (受賞者)神足 勝浩 氏
- 第14回 地方自治による山村活性化への取り組み (受賞者) 松形 祐堯 氏
- 第15回 国民参加の森林づくり運動の推進 (受賞者) 高木 文雄 氏
- 第16回 民間団体等による「国民参加の森林づくり」運動支援 (受賞者)株式会社 ローソン (ローソン緑の募金)

- 第17回 森林を活かし、木の文化の伝承に貢献した者 (受賞者) 小原 二郎 氏
- 第18回 森林文化を未来に引き継ぐ森林管理 (受賞者)神宮司庁営林部(伊勢神宮宮域林)
- 第19回 民間団体による国際緑化活動の推進 (受賞者) (財) オイスカ
- 第20回 森林と人との豊かな関わりを目指して (受賞者) 北村 昌美 氏
- 第21回 伝統の技が生み出す木の文化 (受賞者) 田中 文男 氏
- 第22回 「水と緑と土」は、豊かな自然の原点 (受賞者) 富山 和子 氏 さくらは日本のシンボル〜大震災からの復興の励みに〜 (受賞者) 佐野 藤右衛門 氏
- 第23回 日本の山から明るく豊かな展望の到来を願って (受賞者) 島﨑 洋路 氏
- 第24回 「森林の力を地域の力に」の実現を目指して (受賞者) 中越 武義 氏
- 第25回 「森は海の恋人」運動の実践を通じ豊かな日本の未来を目指して (受賞者) 畠山 重篤 氏
- 第26回 「森の再生」と「心の再生」-豊かな森が持つ可能性を信じて-(受賞者) C.W. ニコル 氏

地域資源とその機能を最大限に活用した地方創生 (受賞者) 岩手県 葛巻町